12　年齢調整死亡率（選択死因）

小　松　市　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	337.0	319.6	337.0	316.5	326.3	918.4	929.6	964.9	1,016.2	1,045.8
結　核	0.4	0.4	1.0	0.3	0.5	0.8	2.1	2.1	0.7	－
悪性新生物	117.4	111.4	106.9	107.5	103.6	252.5	265.4	245.6	277.1	272.9
胃	14.8	13.2	11.8	12.6	14.4	26.2	30.9	26.2	26.5	21.0
肝及び肝内胆管	9.7	12.0	5.5	3.6	4.0	18.5	16.0	15.1	14.2	16.6
気管、気管支及び肺	25.9	25.3	22.4	22.3	16.1	54.0	56.1	57.1	61.6	61.8
糖尿病	3.0	1.6	4.0	2.4	1.8	10.6	6.0	7.5	10.9	5.6
高血圧性疾患	0.9	0.8	1.6	0.1	1.7	3.2	2.7	1.4	4.0	1.9
心疾患（高血圧性を除く）	38.6	43.4	42.2	38.0	48.6	132.5	140.2	146.4	170.7	141.6
脳血管疾患	23.8	23.4	20.6	28.9	22.5	69.9	70.0	62.8	61.0	69.2
大動脈瘤及び解離	3.9	4.3	5.9	3.8	4.4	21.3	13.2	10.3	10.6	14.2
肺炎	20.9	24.8	16.1	16.1	18.6	59.6	41.2	44.8	33.9	47.6
慢性閉塞性肺疾患	2.2	3.0	2.7	2.2	2.8	8.9	11.2	4.7	6.2	9.1
喘息	－	0.4	1.0	－	0.5	1.7	0.8	0.8	－	0.7
肝疾患	5.8	1.8	4.5	3.9	3.3	9.5	11.3	12.2	13.5	10.1
腎不全	4.9	3.0	4.9	5.4	4.3	16.0	10.7	18.0	16.8	22.1
老衰	15.2	17.5	18.7	17.1	17.2	89.3	92.1	125.1	128.6	131.9
不慮の事故	18.0	9.5	13.7	15.1	14.6	27.0	37.8	27.8	32.3	29.0
交通事故	5.4	2.1	4.4	2.7	2.3	4.7	4.8	2.7	3.6	2.6
自殺	12.8	16.1	18.3	8.6	15.8	15.1	16.6	13.2	19.8	18.1

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。
また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２５年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。

12　年齢調整死亡率（選択死因）

加　賀　市　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	360.1	353.0	374.0	379.4	365.1	1,030.4	1,029.1	1,028.6	1,212.9	1,024.9
結　核	0.4	0.3	－	－	－	1.8	1.7	－	2.1	－
悪性新生物	120.5	133.7	130.5	123.9	111.9	304.8	292.6	289.4	342.0	270.6
胃	17.7	22.7	16.8	12.6	9.1	39.4	27.7	29.2	23.2	25.1
肝及び肝内胆管	6.6	13.6	8.1	6.9	6.4	20.6	22.0	12.5	18.4	11.7
気管、気管支及び肺	30.7	18.0	30.1	38.6	27.4	63.7	64.8	59.3	66.8	56.1
糖尿病	4.6	5.4	5.4	4.7	4.4	14.8	8.8	17.2	14.5	16.4
高血圧性疾患	0.6	0.7	4.7	2.9	3.2	11.6	17.6	7.3	10.5	13.1
心疾患（高血圧性を除く）	52.6	50.4	52.5	49.8	57.3	170.5	124.0	146.5	141.6	119.4
脳血管疾患	25.4	27.4	32.3	28.0	32.1	70.4	68.7	67.8	76.4	66.1
大動脈瘤及び解離	5.4	4.2	4.4	4.3	4.5	18.5	10.6	15.7	19.4	17.8
肺炎	25.5	26.7	17.0	19.5	13.6	36.4	20.7	28.4	25.9	22.9
慢性閉塞性肺疾患	2.3	3.1	6.4	3.9	1.3	4.2	7.1	10.3	8.1	7.4
喘息	0.6	－	0.7	－	－	－	－	1.1	1.9	－
肝疾患	3.7	3.8	6.8	8.8	5.3	12.5	16.7	12.4	19.2	18.6
腎不全	6.5	5.3	4.3	6.5	7.1	22.8	23.6	30.8	14.8	17.9
老衰	15.6	16.3	11.9	11.6	10.1	67.5	82.4	85.8	110.6	108.6
不慮の事故	15.6	19.2	13.2	16.2	19.2	32.7	37.8	33.5	37.4	36.0
交通事故	2.7	0.2	5.2	1.1	2.8	5.5	4.2	2.0	1.0	6.2
自殺	14.4	6.3	17.0	8.6	7.7	23.8	26.0	22.6	30.2	12.7

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。

また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２３年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。

12　年齢調整死亡率（選択死因）

能　美　市　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	339.9	329.2	290.2	314.6	313.1	914.5	908.1	975.1	914.9	986.2
結 核	－	－	－	－	－	4.1	－	－	1.8	－
悪性新生物	110.7	112.3	98.8	108.5	95.7	299.6	299.0	246.8	230.3	267.4
胃	14.8	10.3	12.9	11.4	7.9	41.1	32.2	29.2	12.4	30.9
肝及び肝内胆管	14.5	6.6	5.8	1.7	4.1	24.9	14.6	6.4	18.7	4.9
気管、気管支及び肺	19.0	16.0	12.9	18.6	19.1	57.3	59.7	59.7	42.9	34.3
糖尿病	3.1	1.1	4.8	7.2	8.5	11.3	11.7	12.3	5.8	8.7
高血圧性疾患	－	0.4	－	1.5	0.3	3.8	3.8	8.6	1.8	1.4
心疾患（高血圧性を除く）	50.0	41.7	36.6	44.0	40.6	115.6	112.4	123.7	123.1	133.5
脳血管疾患	21.6	34.1	27.1	24.2	31.0	82.8	78.0	70.4	77.5	66.3
大動脈瘤及び解離	0.7	3.1	2.4	3.6	2.9	12.3	8.0	28.0	16.8	18.2
肺炎	25.1	18.4	13.9	8.9	10.7	40.7	60.5	43.3	40.3	38.7
慢性閉塞性肺疾患	2.2	0.7	4.7	2.7	2.5	16.2	2.0	13.1	1.8	9.8
喘息	－	－	0.9	0.3	0.7	－	－	－	－	－
肝疾患	4.5	4.7	6.0	1.8	2.7	7.3	9.3	7.1	11.5	4.9
腎不全	3.6	3.8	4.5	3.4	5.2	17.8	16.2	13.1	22.3	10.8
老衰	17.5	15.7	14.6	20.4	16.5	69.3	74.5	118.0	100.9	109.4
不慮の事故	9.6	25.6	8.8	9.4	16.0	28.5	25.3	24.5	24.0	34.5
交通事故	1.0	8.2	1.9	－	3.3	5.9	－	6.5	3.8	1.6
自殺	22.4	14.7	7.5	17.3	10.0	16.5	6.2	12.8	21.7	7.5

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。
また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２３年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。

12　年齢調整死亡率（選択死因）

川　北　町　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	184.2	244.4	311.4	243.3	288.1	960.8	855.9	629.5	942.6	853.3
結 核	3.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
悪性新生物	36.3	71.0	118.0	78.1	101.5	234.6	229.0	198.0	239.9	212.0
胃	－	5.6	16.9	－	－	37.7	60.8	28.8	28.0	15.9
肝及び肝内胆管	9.4	2.8	9.0	－	8.2	33.1	－	－	－	15.9
気管、気管支及び肺	3.0	18.4	21.1	24.8	42.4	12.1	101.8	－	69.2	57.8
糖尿病	5.5	2.8	2.6	2.4	－	－	－	－	－	－
高血圧性疾患	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
心疾患（高血圧性を除く）	9.0	19.6	37.9	37.9	54.5	130.4	156.5	101.1	174.8	151.2
脳血管疾患	6.0	20.3	73.0	39.5	20.3	88.6	103.0	36.0	75.3	28.0
大動脈瘤及び解離	－	－	2.6	2.4	－	26.9	－	－	－	－
肺炎	22.8	17.5	10.8	4.8	25.9	58.3	28.4	25.9	20.5	17.4
慢性閉塞性肺疾患	－	－	－	－	－	18.8	－	－	14.5	－
喘息	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
肝疾患	－	－	－	－	－	32.5	－	－	－	－
腎不全	－	－	2.6	5.9	－	－	19.0	－	10.2	15.9
老衰	26.9	16.8	10.4	13.1	16.7	67.6	83.2	58.7	72.8	170.7
不慮の事故	49.2	28.6	14.3	8.8	8.2	37.4	15.6	－	32.1	31.1
交通事故	27.5	－	－	－	－	－	15.6	－	－	－
自殺	－	44.8	－	13.3	－	－	－	－	13.1	－

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。
また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２３年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。

12　年齢調整死亡率（選択死因）

管　内　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	342.1	332.1	339.0	333.3	334.6	951.9	954.6	978.0	1,055.8	1,020.0
結 核	0.4	0.3	0.4	0.1	0.2	1.7	1.5	1.0	1.3	－
悪性新生物	115.5	118.1	112.7	112.3	104.6	277.5	279.0	259.7	287.8	269.2
胃	15.5	15.3	13.9	11.9	11.1	33.7	30.7	27.7	22.9	24.1
肝及び肝内胆管	9.8	11.3	6.5	4.2	4.9	20.9	17.3	12.3	16.2	12.7
気管、気管支及び肺	25.7	21.0	23.2	26.8	21.0	56.9	60.4	57.0	59.7	54.2
糖尿病	3.6	2.8	4.6	4.2	4.0	11.9	7.9	11.4	11.0	9.6
高血圧性疾患	0.6	0.7	2.3	1.4	1.9	6.1	7.8	4.7	5.7	5.5
心疾患（高血圧性を除く）	44.6	44.8	44.2	43.2	49.9	141.6	129.2	140.8	151.7	133.1
脳血管疾患	23.4	26.9	26.9	27.7	26.9	72.0	71.5	65.4	68.9	66.3
大動脈瘤及び解離	3.6	3.9	4.7	3.9	4.1	18.6	11.1	15.3	14.1	15.6
肺炎	23.2	24.0	16.0	15.6	15.6	48.4	37.2	38.4	31.9	37.0
慢性閉塞性肺疾患	2.1	2.6	4.2	2.8	2.2	8.8	7.9	8.1	6.2	8.4
喘息	0.2	0.2	0.9	0.1	0.3	0.8	0.4	0.7	0.6	0.3
肝疾患	4.8	3.0	5.5	5.0	3.8	10.9	12.0	10.9	14.2	11.3
腎不全	5.1	3.9	4.5	5.3	5.3	18.2	16.3	20.9	17.0	18.3
老衰	16.0	16.7	15.4	15.6	14.5	77.9	85.6	108.6	116.5	120.6
不慮の事故	16.1	16.4	12.7	14.0	16.2	28.9	34.6	28.2	32.2	32.1
交通事故	4.4	2.8	4.0	1.6	2.7	4.9	4.2	3.3	2.8	3.4
自殺	15.0	14.2	15.3	10.9	11.8	17.2	17.2	15.5	22.4	14.2

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。
また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２３年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。

12　年齢調整死亡率（選択死因）

石　川　県　　（人口10万対：直接法）

死　　因	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
死亡総数	351.7	345.9	341.0	325.6	325.5	937.4	957.1	1,011.5	1,030.9	1,040.4
結 核	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	1.0	1.0	1.1	0.7	0.5
悪性新生物	121.1	120.0	116.7	112.6	108.9	281.5	272.5	271.8	269.5	266.4
胃	15.5	14.8	12.7	13.3	12.3	32.3	31.1	31.4	28.3	25.6
肝及び肝内胆管	9.1	9.0	7,3	5.9	6.3	16.6	15.4	13.9	14.7	17.7
気管、気管支及び肺	24.9	22.8	23.1	22.5	20.6	56.1	54.4	56.6	50.9	49.5
糖尿病	3.3	3.2	3.7	3.7	3.2	9.6	10.3	11.9	12.8	12.1
高血圧性疾患	1.0	1.0	1.9	2.1	2.1	6.2	6.7	8.1	10.2	9.1
心疾患（高血圧性を除く）	46.1	44.3	45.1	45.9	42.8	135.4	138.0	144.9	148.1	133.2
脳血管疾患	28.4	28.8	27.6	27.3	24.7	73.5	80.1	76.0	76.1	74.3
大動脈瘤及び解離	4.8	4.4	4.7	4.3	4.2	13.8	13.5	14.7	13.2	15.1
肺炎	26.4	23.3	17.2	14.4	15.4	49.4	45.3	44.2	44.2	41.7
慢性閉塞性肺疾患	3.0	3.4	4.2	3.5	2.5	9.6	10.3	10.0	9.2	10.5
喘息	0.4	0.5	0.5	0.3	0.2	0.9	0.5	0.5	1.1	0.9
肝疾患	6.3	5.2	6.8	5.2	6.0	10.9	12.8	10.7	12.4	13.5
腎不全	4.1	4.4	4.7	5.3	5.3	15.7	15.4	15.6	16.4	16.5
老衰	12.0	12.3	12.8	13.6	13.5	73.2	77.0	100.0	105.7	115.1
不慮の事故	15.7	16.9	13.2	12.9	12.1	27.9	29.7	29.0	31.5	47.8
交通事故	3.5	4.2	2.6	1.7	1.8	3.7	2.8	3.2	3.2	3.1
自殺	16.2	14.0	14.9	10.7	13.4	14.8	13.9	16.8	18.5	12.7

資料：衛生統計年報

<< 年齢調整死亡率について >>

・年齢調整死亡率は、死亡率の欠点を補う指標である。死亡状況を観察する場合、高齢者の多い地域では死亡率が高いことが予想される。

また、同一地域の過去と現在を比較する場合も、高齢化の進展の影響を排除して比較する必要がある。
そこで、２つ以上の地域を比較する場合、観察しようとする複数の人口構成を標準的な人口と仮定して死亡者数を
計算し直すことにより比較可能な指標としたものである。
上記の値は、年齢階級を０歳から８５歳以上まで５歳階級区分とし、標準的な人口は平成２３年から令和元年は「昭和６０年モデル人口」、
令和２年からは「平成２７年モデル人口」とした。